ブヌン語における代名詞語根からの動詞派生[1]

野島　本泰
nojima.motoyasu@gmail.com

キーワード:ブヌン語，台湾，オーストロネシア語族，記述言語学，代名詞，動詞，派生

0　はじめに

ブヌン語[2] には，代名詞語根に動詞命令接辞がついて動詞化するという現象が見られる。たとえば，1 人称単数代名詞 *zaku* に動詞命令接辞 *-av* がついて *zaku-av*「…するのは私にし

---

[1] 本稿の内容は，2009 年 11 月に神戸大学でおこなわれた日本言語学会第 139 回大会における筆者の口頭発表「ブヌン語における代名詞語根からの動詞派生」に基づいている。本稿の執筆にあたっては，多くの方々にご助言をいただいた。特に，以下の方々からは口頭発表の際，貴重なご意見を賜った：風間伸次郎氏，杉浦滋子氏，角田太作氏，湯川恭敏氏。また，総合地球環境学研究所でおこなわれた言語記述研究会の同志，それに，貴重なご意見・ご質問またさまざまな言語についての情報をくださった稲垣和也氏，今西一太氏，入江浩司氏，梅谷博之氏，北野浩章氏，坂本文子氏，佐々木冠氏，塩原朝子氏，田口善久氏，土田滋氏，David Gil 氏，仲尾周一郎氏，長神悟氏，新居田純野氏，林徹氏，平野尊識氏，松村一登氏，Lawrence Reid 氏，吉田浩美氏に，ここに深く謝意を述べたい。この原稿をまとめるにあたっては，数多くの母語話者の方にお世話になった。まず，高雄市那瑪夏区達卡努瓦村（旧：三民郷民生村）のブヌン語話者の皆さん，特に周文罷氏（ブヌン名 *Bukun Takistaulaan*, 男性, 1928 年生まれ), 周銀能氏（ブヌン名 *Lanihu Takistaulaan*, 男性，1942 年生まれ)，また，同じく那瑪夏区瑪雅村（旧：民権村）出身の卜袞（ブヌン名 *Bukun Ismahaan Islituan*，男性，1956 年）には，わずらわしい質問に丁寧に答えていただき，多くのことを教えていただいた。ありがとうございます。なお，本稿の誤りはすべて筆者（野島）に責任がある。

[2] ブヌン語 (Bunun) は，台湾の中南部（南投縣・花蓮縣・台東縣・高雄縣）で話されている言語で，オーストロネシア語族に属する。大きく 3 つの方言群，すなわち北部方言群，中部方言群，南部方言に分けられている (Li 1988)。本論文で考察の対象とするのは南部方言である。データはすべて筆者が 1994 年 8 月から 2009 年 8 月にかけて高雄市那瑪夏区達卡努瓦村（旧：高雄縣三民郷民生村）でおこなった調査で得たものである。本論文で用いる表記は次の通り：子音 *p*, *b*, *v*, *m*, *t*, *z*[ð], *d*, *n*, *s*, *l*[ɬ], *k*, *ng*[ŋ], *h*[χ], ʼ[ʔ], y[j], w。子音 *s*, *t* は *i* の前で口蓋化し，それぞれ [ɕi], [tɕi] と発音される。また，*s* は同じ音節の中で母音 *i* の後ろに来た時も口蓋化して [iɕ] と発音されることがある。子音 /ʼ/ とゼロは語中においてのみ対立する（語頭と語末では対立しない）。子音 y, w は外来語を含む少数の語にのみ用いられる。母音 *a*, *i*, *u*。アクセントは非弁別的である。2 音節以上からなる語の場合，語の後ろから数えて 2 番目の母音を含む音節が高いピッチで発音される。
本稿では次の略号を用いた：1SG（1 人称単数），1PL.EXCL（1 人称複数排除），1PL.INCL（1 人称複数包含），3SG（3 人称単数），ACC（対格），AV（行為者ボイス），CV（移動物ボイス），DET（限定詞），DP（談話小詞），ERG（能格），GEN（属格），IMP（命令），IMPERF（未完了相），LG（連結辞），LOC（場所格），LV（場所ボイス），NAV（非行為者ボイス），NEU（基本形），NOM（主格），OBL（斜格），PASS（受身），PV（被動者ボイス），SP（空間的接頭辞）。

なさい，私を（に）…しなさい」という動詞が派生する[3]。例としてブヌン語で「私を殺しなさい。」という意味を表す 2 つの文を見ることにする：

(1) *pataz-av* *saikin.*
kill-IMP.NAV NOM.1SG
「私を殺しなさい。」

(2) *zaku-av* *a* *pataz-un.*
NEU.1SG-IMP.NAV NOM kill-PV
「私を殺しなさい（殺すのは私にしなさい）。」

例文 (1) と (2) の間の意味の違いは, 現段階ではよくわかっていない。例文 (2) は (1) に比べて「他の人ではなく私を」といった対照的な視点が感じられやすいようではある。同様に，例としてブヌン語で「私を見なさい。」という意味を表す 2 つの文を見ることにする：

(3) *sadu-av* *saikin.*
look:at-IMP.NAV NOM.1SG
「私を見なさい。」[4]

(4) *zaku-av* *a* *sadu-an.*
NEU.1SG-IMP.NAV NOM look:at-LV
「私を見なさい（見るのは私にしなさい）。」

例文 (3) と (4) の間の意味の違いも, やはり現段階ではよくわかっていない。例文 (4) は (3) に比べて「他の人ではなく私を」といった対照的な視点が感じられやすいようではある。本論文では，代名詞動詞の意味よりも形態統語的な振る舞いに焦点を当てて記述をおこなう。

本論文では，例文 (2) や例文 (4) の *zaku-av* のように「人称代名詞を語基として作られている動詞」を「代名詞動詞」と呼ぶことにする（厳密な定義は第 2 節でおこなう）。代名詞動詞の存在は他の台湾オーストロネシア諸語では報告されていない。また，筆者の知る限り，ブヌン語の代名詞動詞について触れている先行研究はない。本論文では，形態論（特に

---

[3] 日本言語学会第 139 回大会における口頭発表の際，風間伸次郎氏からは「派生という用語を簡単に用いるべきではない」とのご指摘をいただいた。しかし，オーストロネシア言語学では，例えば代名詞 *akin* "GEN.1SG" に接尾辞 *-in* "PV" がついて 動詞 *akin-in* "to appropriate something for oneself" が作られるプロセスを，代名詞からの動詞派生と見なす考え方が一般的である（平野尊識氏，Lawrence Reid 氏，David Gil 氏，土田滋氏，私信）。

[4] 「私を見なさい。」という意味を表す文としては，もう 1 つ *sadu-a mazaku.*という文を許容する話者も（少ないが）いることはいるようである。ここでは，行為者ボイスの命令法の動詞 *sadu-a* を述語とし，対格代名詞 *mazaku* がそれに後続している。

人称の制限，およびボイスの制限），それと統語論（文における機能）について，記述言語学的な立場から述べる。

1　ブヌン語の概観

1.1　ブヌン語の統語論の概観

1.1.1　基本語順

基本語順では，述語が節の先頭に現れる。例文 (1) では動詞 *pataz-av* が節の先頭に置かれている。述語が節の先頭に置かれるという制限は，例文 (1) のような命令文に限らず，どの種類の節においても成り立つ。

1.1.2　「フィリピン型」と呼ばれるボイス

ブヌン語には，「フィリピン型」と呼ばれるボイス（いわゆる「焦点システム」）がある。ボイスは，(a) 行為者ボイス (agent voice)，(b) 被動者ボイス (patient voice)，(c) 場所ボイス (location voice)，(d) 移動物ボイス (conveyance voice) からなる，4 項対立の体系であり、それぞれ述語動詞の動詞接辞によって標示される。

この体系では，1 つの節につき 1 つの（そして 1 つだけの）句が主格に選ばれ，その主格名詞句の意味役割をその節の述語動詞の動詞接辞が示す。例えば，例文 (5) では，唯一の主格項 *kaimin*「私ども」の意味役割が《行為者 (agent)》であることは、動詞接頭辞 *ma-* によって示されている。また，対格の標識 *mas* が，もう 1 つの顕在的な項 *hanvang*「鹿」についており，この項の意味役割が 《被動者 (patient)》 であることを示している。このように対格が標示される項は，動詞接辞によって意味役割が示されることはない。

(5)　*ma-pataz*　*kaimin*　*mas*　*hanvang*
　　AV-kill　NOM.1.PL.EXCL　ACC　deer
　　「私どもが鹿を殺した（こと）」

また，例文 (6) では，唯一の主格項 *a maaz=a 'ivut*「その蛇」の意味役割が《被動者》であることは、動詞接頭辞 *-un* によって示されている。また，行為者格の標識 *=s* が，もう 1 つの顕在的な項 *'isbabanal*「ババナル姓の人」についており，この項の意味役割が 《行為者》であることを示している。このように行為者格が標示される項は，動詞接辞によって意味役割が示されることはない。

(6)　*pataz-un*　*dau=s*　*'isbabanal*　*a*　*maaz=a*　*'ivut.*
　　kill-PV　hearsay=AGT　Isbabanal　NOM　NOM　snake
　　「ババナル姓の人がその蛇を殺したそうだ。」

例文(7) では，唯一の主格項 *maaz=a tibuklav* 「その胃」の意味役割が《場所》であるこ

とは、動詞接頭辞 *-an* によって示されている。「その胃」の意味役割が《場所》であるというのは,「刺す」という行為によって（刀が）突き刺される場所であるという意味である。また，行為者格の標識 *=s* が，もう 1 つの顕在的な項 *mabananaz* 「（その）男」についており，この項の意味役割が 《行為者》 であることを示している。このように行為者格が標示される項は，動詞接辞によって意味役割が示されることはない。

(7) *kis-laupa-an=s* *mabananaz* *maaz=a* *tibuklav* *hai,*
LP(stab)-stab-LV=AGT man NOM stomach CONJ
[san-'apav *a* *'auhaz]*
AV.INTR-come:out NOM pigling
「男が（女の）胃を刺したら，［仔豚がぱっと出てきた］」

ここで例文 (6) が被動者ボイスであるのに対し, 例文 (7) が場所ボイスである点について説明をしておきたい。日本語の話者からすれば,「蛇を殺す」の「蛇」が《被動者》であり,「胃を刺す」の「胃」が《場所 (location)》であるというのは，やや理解しがたい現象に思えるかもしれない。述語動詞と名詞項の関係において，述語動詞とどのような関係を持つ名詞項が《被動者》の意味役割を持つものとして扱われ，どのような関係を持つ名詞項が《場所》の意味役割を持つものとして扱われるかは，一部は両者の意味的な関係から説明可能であるが，究極的には個々の動詞語根（語基）ごとに個別に決まっている事実である。

「蛇を殺す」と「胃を刺す」の例は，意味的に説明が可能な例と言えそうである。というのは,「蛇を殺す」という事象において,「蛇」は全体的に影響を受ける (totally affected) のに対し,「胃を刺す」という事象においては,「胃」は部分的にしか影響を受けない (partially affected) からである。具体的に言うと, 殺すという行為が完了すれば蛇は存在しなくなるが, 刺すという行為が完了しても，胃それ自体は存在を続けるということである。

「究極的には個々の動詞語根ごとに個別に決まっている事実」だといわざるをえないのは, 例えば,「戸を開ける」という事象における「戸」は《被動者》として扱われる（例：*tau'**-un**=ku a 'ilav.*「私はその戸を開ける。」）のに対し,「戸を閉める」という事象における「戸」は《場所》として扱われる（例：*sukud**-an**=ku a 'ilav.*「私はその戸を閉める。」）という事実があるからである。

例文 (2) で被動者ボイス *pataz-un*「殺す」が現れているのに，例文(4)では場所ボイス *sadu-an*「見る」が現れているのも，究極的には *pataz, sadu* という語根ごとに個別に決まっていることである。殺す相手も見る相手もともに《対象/客体 (undergoer)》であるけれども, 前者は《被動者》として扱われ，後者は《場所》として扱われるのである。

1.1.3 人称代名詞

次は人称代名詞の体系について。人称および数は，次の 7 つが区別される： 1 人称単数, 1 人称複数排除 (exclusive "we"), 1 人称複数包含 (inclusive "we"), 2 人称単数，2 人称複数,

3 人称単数，3 人称複数。そしてそれぞれに，基本形，主格，行為者格，対格，場所格，属格の曲用がある。例として 1 人称単数の形を列挙する（括弧内は後倚辞）：基本形 *zaku*，主格 *saikin (=ik)*，行為者格 *=ku*，対格 *mazaku (=ku)*，場所格 *zakuan*，属格 *'inaak (=nak)*。

1.1.4　後倚辞指示詞

後倚辞指示詞 (enclitic demonstrative) は，名詞句や動詞類の直後に用いられ，格と遠近とを同時に表す小詞である（表 1 を参照）。

表 1．ブヌン語南部方言の後倚辞指示詞

	近称 1（PROX1）	近称 2（PROX2）	遠称（DIST）
主格（NOM）	*=in*	*=an*	*=a*
斜格（OBL）	*=tin*	*=tan*	*=tia*

1.1.5　範囲の限定

日本語の「だけ」がおこなうような範囲の限定は，節頭の述語動詞によっておこなわれる傾向がある。次の例文 (8) では「食べる」という行為の対象が「ご飯」だけであるという，範囲の限定を，述語動詞がおこなっている。

(8)　*kaupa-av*　*mas*　*haising=tan*　*a*　*kaun-un.*
only-IMP.NAV　ACC　cooked:rice=OBL.PROX2　NOM　eat-PV
「このご飯だけ食べなさい（食べるのはこのご飯だけにしなさい）。」

このことをここで述べたのは，後で，代名詞動詞を述語とする文を統語論的に位置づける際に必要となるからである。

1.2　ブヌン語の形態論の概観

典型的な動詞の活用を一部だけ示すと，表 2 の通りになる：

表 2．ブヌン語南部方言の動詞 *kilim* 「探す」の活用

	不定形	過去形	命令形	反復形
行為者ボイス (AV)	*kilim*「探す」	*k<in>ilim*	*kilim-a*	*ki~kilim*
被動者ボイス (PV)	*kilim-un*	*k<in>ilim*	*kilim-av*	*ki~kilim-un*

2　代名詞動詞

本論文では，人称代名詞基本形に動詞接辞がついてできた動詞を「代名詞動詞(depronominal verb)」と呼ぶことにする。(2), (4) で見たように，代名詞語根は，ボイスを標示する動詞接辞が添加され，節の中で述部として機能する。

ところが，ブヌン語には，本論で考察の対象とする代名詞動詞の他にも「代名詞語根からの動詞派生」がある。以下のようなものである。

(9)　*pa-inaak-av*　*a*　*tulkuk=an.*[5]
CAUS-GEN.1SG-IMP.NAV　NOM　chicken=NOM.PROX2
「この鶏を私にください。」

(10)　*tis-zaku*　*kuzakuza.*
for:the:sake:of-NEU.1SG　AV-work
「私のために働く。」

(11)　*'i-zakuan*
SP(at)-LOC.1SG
「私のところにいる」

(12)　*na*　*su'a-un=ku*　*saiv-an.*
FUT　NEU.2SG-PV=AGT.1SG　give-LV
「私はあなたにあげる。」

本論文では，これらの代名詞動詞を考察の対象とはせず，以上の例示に留めることにする[6]。

3　代名詞動詞の形態論

まず，聞き手を含む人称・数には代名詞動詞は存在しない。 すなわち，1 人称複数包含，2 人称単数，2 人称複数には代名詞動詞は存在しない。1 人称単数，1 人称複数排除，3 人称単数，3 人称複数にのみ代名詞動詞が存在する。代名詞動詞の命令形をすべて挙げると：1 人称単数 *zaku-av*，1 人称複数排除 *zami-av*，3 人称単数 *si'a-av*，3 人称複数 *nai'-av*。3 人称については，後倚辞指示詞 がつくことがあり，その場合 *=tan* がつく形が近称であり，*=tia* がつく形が遠称である（後倚辞指示詞 *=tin* がついた形は話者によって許容されない場合がある）。

また，代名詞動詞には被動者ボイスの命令法の形のみ存在する（表 2 の太枠の箇所）。つ

---

[5]　属格代名詞は，名詞句の中で次のように用いられる：*'inaak tu tulkuk* (GEN.1SG LG chicken)「私の鶏」。
[6]　この他，*ku-diip*「そこへ行く」も指示詞的な語基に動詞接辞がついて派生した動詞である。

まり，代名詞動詞は欠如動詞 (defective verb) である。

表 3．ブヌン語南部方言の代名詞動詞の命令形

	1SG	1PL.EXCL	1PL.INCL	2SG	2PL	3SG	3PL
代名詞動詞の命令形	*zaku-av*	*zami-av*	―	―	―	*si'a-av*	*nai'-av*

4　代名詞動詞の統語論

代名詞動詞は単独で用いられ，文になる。例文 (2), (4) で，もし文脈から「何をしなさい，といっているか」が明らかな場合は，代名詞動詞だけで文が成立する。つまり，代名詞動詞は文（節）の主要部 (head) である。

その一方で，代名詞動詞は例文 (2), (4) のように主格名詞句に選ばれた動詞（句）とともに用いられることもある。その場合，「後続の動詞は行為者ボイスであってはならない」という制限がある。次の例文 (13b), (14b) を参照されたい。以下の (13b), (14b) では，命令内容の動作をあらわす後続の動詞は, 行為者ボイスで標示されている（それぞれ *ma-saiv, sadu*）。これらの文は，代名詞動詞に行為者ボイスの動詞が後続しており，そのために，(13b), (14b) の文は非文法的である。それに対し，(13a), (14a) では，後続の動詞は，それぞれ，被動者ボイス，場所ボイスで標示されており，それゆえ，文法的である。

(13) a. *zaku-av* *a* *pa-saiv-un.*
NEU.1SG-IMP.NAV NOM CAUS-give-PV
「私に与えさせなさい（与えさせられるのは私にしなさい=私があげます）。」[7]

b. **zaku-av* *a* *ma-saiv.*
NEU.1SG-IMP.NAV NOM AV-give

(14) a. *zaku-av* *a* *pa-sadu-an.*
NEU.1SG-IMP.NAV NOM CAUS-look:at-LV
「私に見させなさい（見させられるのは私にしなさい=私が見ます）。」

b. **zaku-av* *a* *sadu.*
NEU.1SG-IMP.NAV NOM AV.look:at

ところで，3 人称単数の代名詞動詞 *si'a-av* は，例文 (15), (16) のように後倚辞指示詞とともに用いられる場合と，例文 (15), (16) のように（後倚辞指示詞ではなく）対格名詞句とともに用いられる場合とがある。後者の場合には「（対格名詞句が表す）まさにその…を…しなさい」という意味で用いられる。

---

[7] ほぼ同じ意味が *na zaku ma-saiv.* (FUT NEU.1SG AV-give)「私があげます。」によっても表せる。

(15) *si'a-av=tan* *a* *simul-un.*
NEU.3SG-IMP.NAV=OBL.PROX2 NOM borrow-PV
「これを借りなさい（借りるのはこれにしなさい）。」

(16) *si'a-av=tia* *a* *pit'i-un*[8].
NEU.3SG-IMP.NAV=OBL.DIST NOM cook-PV
「あれを炊きなさい（炊くのはあれにしなさい）。」

(17) *si'a-av* *mas* *busul=tan* *a* *simul-un.*
NEU.3SG-IMP.NAV ACC gun=OBL.PROX2 NOM borrow-PV
「この鉄砲を借りなさい（借りるのはこの鉄砲にしなさい）。」

(18) *si'a-av* *mas* *maduh* *tu* *tilas=tia* *a* *pit'i-un.*
NEU.3SG-IMP.NAV ACC millet LG uncooked:rice=OBL.DIST NOM cook-PV
「あの粟の米を炊きなさい（炊くのはあの粟の米にしなさい）。」

この例文 (15), (16) は，動詞の直後に対格名詞句が続き，それにさらに主格に選ばれた動詞（句）が後続する点で，例文 (8) と形式的に同じである。また，意味的にも，対格名詞句に何らかの意味での「限定」がおこなわれている点で同じである。このことから，現時点では，両者は同じ構文と見るのが妥当だろう。そして，例文 (2), (4) のような 1 人称の代名詞動詞を述語とする文は，限定の対象が 1 人称であるという特殊な場合に成立するのだ，と考えられる。

5 他の言語の「人称代名詞からの動詞派生」

本節では，他の言語に見られる「人称代名詞からの動詞派生」について見る。それによって，ブヌン語の代名詞動詞の特性を考える。

5.1 ドイツ語の *duzen, siezen* など

人称代名詞を語基とする動詞というと，ドイツ語の *dozen, siezen*「（…に）*du, Sie* を使って話しかける」など，ヨーロッパの諸言語のものが思い浮かぶ。しかし，それらは人称代名詞をある種「メタ言語的に」，つまり引用形式として，扱っているものである。実際，*Kluge Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache* (24. Auflage, 2002) [CD-ROM 版] によると，ドイツ語の *duzen* の *-zen* は主に間投詞から動詞をつくる接尾辞で, *duzen, siezen* の他にも、今は使われないけれども，*ihrzen*「*ihr* で話しかける」, *erzen*「（聞き手に対して）*er* で話しかける」という 動詞もあったという（入江浩司氏，私信）。

---

[8] 被動者ボイスの動詞 *pit'i-un* の語基は *pit'ia* であるが，接尾辞 *-un* の付加により語基末尾の母音 *a* は義務的に脱落する。

アイスランド語では，*þúa*「*þú*（2 人称単数代名詞の親称）で話しかける」，*þéra*「*þér*（2 人称代名詞の敬称 [単・複]）で話しかける」という動詞がある。*-a* は動詞の不定詞の接尾辞で，主語にあわせて人称・数の活用をする。これも，ドイツ語と同じく，メタ言語的な用法である（入江浩司氏，私信）。

ブヌン語の代名詞動詞はこれらと異なり，代名詞語幹が人称および数を標示するという機能をそのままもったまま動詞化している。

5.2　フィンランド語の *sinu-t-el-la* など

フィンランド語（ウラル語族，フィン・ウゴル語派）にも，*sinu-t-el-la* [代名詞語幹-他動詞形成接辞-多回相-不定詞語尾] 「（ドイツ語の *duzen*）」，*tei-ti-t-el-lä* [代名詞語幹-??-他動詞形成接辞-多回相-不定詞語尾]「（ドイツ語の *siezen*）」という，代名詞語幹からの動詞派生がある（松村一登氏，私信）。これも，ドイツ語やアイスランド語のものと同じく，メタ言語的な用法である。

5.3　インドネシア語の *beraku*

インドネシア語には *aku* "I (familiar, intimate)" から派生した動詞 *beraku* "use *aku*, be familiar when talking to another" がある (Echols and Shadily 1989)。これも同様に人称代名詞を「メタ言語的に」使っている例である。バリ語でも同様に，「お前」という，少し乱暴に相手を扱う 2 人称代名詞 *cai* に使役接尾辞をつけて「お前呼ばわりする」という他動詞 *cai-ang* が派生する（塩原朝子氏，私信）。これらも，ドイツ語やアイスランド語，フィンランド語のものと同様に人称代名詞を「メタ言語的に」使っている例である。ブヌン語の代名詞動詞は，これらとは異なり，代名詞の人称および数を示す「場面的指示」という機能を保持しつつ動詞化してできたものである。両者は別物として扱うべきだろう。

5.4　英語の *She you-you-you'd him so much, they broke up.* など

言語学者 Lawrence Reid 氏によれば，英語では人称代名詞を繰り返した上で動詞として用いることができるという。例えば，"She you-you-you'd him so much, they broke up." というものである。これは，"She kept on telling him: 'You do this, You do that, You never pick up your clothes, You never help in the kitchen, You smoke too much, You drink too much, etc."（彼女は彼に何度も言い続けた，「あなたはこれをしなさい」「あなたはあれをしなさい」「あなたは自分の服をかたづけない」「あなたは洗いものを手伝わない」「あなたはタバコを吸い過ぎる」「あなたは酒を飲み過ぎる」…）という意味だという。

5.5　バスク語の *niregana-tu* など

バスク語の *niregana-tu* 「私のものにする」は，1 人称方格形 *niregana* に動詞を作るための生産的な語尾がついてできた動詞である。*beregana-tu*「彼/彼女のものにする」，*guregana-tu*「私たちのものにする」など，他の人称もそろっている（吉田浩美氏，私信）。

5.6　インドネシア口語の *ke saya-in, di-ke-kamu-in*

インドネシア口語 (Colloquial Indonesian) では，1 人称代名詞 *saya* や 2 人称代名詞 *kamu* などが動詞接尾辞 *-in* を伴い派生動詞を作る (Ms. Lanny Hidajat，私信)。

(19)　*buku=nya*　*ke*　*saya-in*　*aja.*
book=the　to　1SG-IN　just
「その本を私に（持ってきて）ください。」

(20)　*buku=nya*　*di-ke-kamu-in*　*aja*　*ya?*
book=the　PASS-to-2SG-IN　just　DP
「私はその本をあなたに（持ってきて）あげましょうか?」

5.7　カパンパガン語の１人称代名詞 *ako* の動詞活用

さらに，ルソン島の言語，カパンパガン (Kapampangan) 語では，1 人称代名詞 *ako* が動詞のように活用する（Michael Raymon M. Pangilinan 氏，私信）。

(21)　*<In>aku*　*na=ng*　*Juan*　*ing*　*kayamanan.*
<PERF.PV>1SG　ERG.3SG=DET　Juan　DET　treasure
"Juan has claimed the treasure."

(22)　*Aku-an*　*mu*　*ing*　*kasalanan*　*mu.*
1SG-IMPERF.PV　ERG.2SG　DET　crimes　POSS.2SG
"Please admit your crimes."

しかし，やはりここでも動詞に含まれる人称代名詞語根は，語彙的意味を表している。ブヌン語の代名詞動詞とは性質が異なると見るのが妥当だろう。

5.8　日本語の「わたくしする」

日本語には「わたくしする」という動詞があり，これも「代名詞からの動詞派生」といえる例といえる。

(23)　*watakushi-suru*
1SG-do
"to make improper use of, misappropriate"

しかし，ここでは「わたくし」が代名詞（人称および数を示す働きを持つ成分）というよ

りは「私利私欲に走る」や「私物化する」の「私」が表す語彙的意味を表している点で，人称および数という文法概念の表示を本務とするブヌン語の代名詞動詞とは異なる。

6　結論

本論文では，以下 A から F を結論として述べた。

A. 聞き手を含む人称・数には代名詞動詞は存在しない。すなわち，1 人称複数包含，2 人称単数，2 人称複数には代名詞動詞は存在せず，1 人称単数，1 人称複数排除，3 人称単数，3 人称複数にのみ代名詞動詞が存在する。
B. 代名詞動詞は，被動者ボイスの命令形のみ存在する。つまり欠如動詞である。
C. 代名詞動詞は単独で用いられ，文を構成することがある。
D. 代名詞動詞は主格で標示された動詞（句）とともに用いられうる。その場合，「主格で標示された動詞は行為者ボイスであってはならない」という制限がある。
E. 代名詞動詞を述語とする文は，範囲の限定をおこなう構文と同じものと見なせる。
F. 代名詞動詞は，「人称および数を示す」という，人称代名詞の「場面的指示」という文法的機能をそのまま保ったまま動詞化してできたものである。その点で，他の言語に見られる「代名詞からの動詞派生」とは異なる。

本稿では，ブヌン語の代名詞動詞が通言語的に見ても珍しい特徴といえそうだということを指摘した。では，通言語的に代名詞を動詞化しにくいのはなぜなのか[9]。この点の考察は今後の課題である。では，ブヌン語ではなぜ代名詞の動詞化ができるのか。これは，おそらくブヌン語の語形成プロセスの特徴，つまりさまざまな意味の語根からの派生が生産的である点が関係しているであろう。

参考文献

Echols, John M. and Hassan Shadily. 1989. *An Indonesian-English Dictionary (3rd Ed.)*. Ithaca: Cornell University Press

English, Leo James. 1986. *Tagalog-English Dictionary (2nd Ed.).* Manila: Distributed by National Book Store

Li, Paul Jen-kuei. 1988. "A comparative study of Bunun dialects." *Bulletin of the Institute of History and Philology* 59.2: 479–508. Taipei: Academia Sinica

[9] よく知られているように，代名詞や固有名詞など指示的な名詞は，名詞抱合 (noun incorporation) により動詞と複合語を作ることが一般にできない。